

# 諸外国における疾病発生状況について

## 動物衛生課

平成 2 6 年 4 月 2 2 日

**農 林 水 産 省**

# 諸外国における疾病発生状況について

## 動物衛生課

### 1. 口蹄疫

- ① 世界における発生
- ② アジア地域における発生

### 2. 鳥インフルエンザ

- ① アジア地域における発生
- ② 韓国における発生
- ③ 中国における高病原性鳥インフルエンザの発生
- ④ 中国における低病原性鳥インフルエンザ(H7N9)の発生

### 3. アフリカ豚コレラ

欧州における発生

### 4. 小反芻獣疫

中国における発生

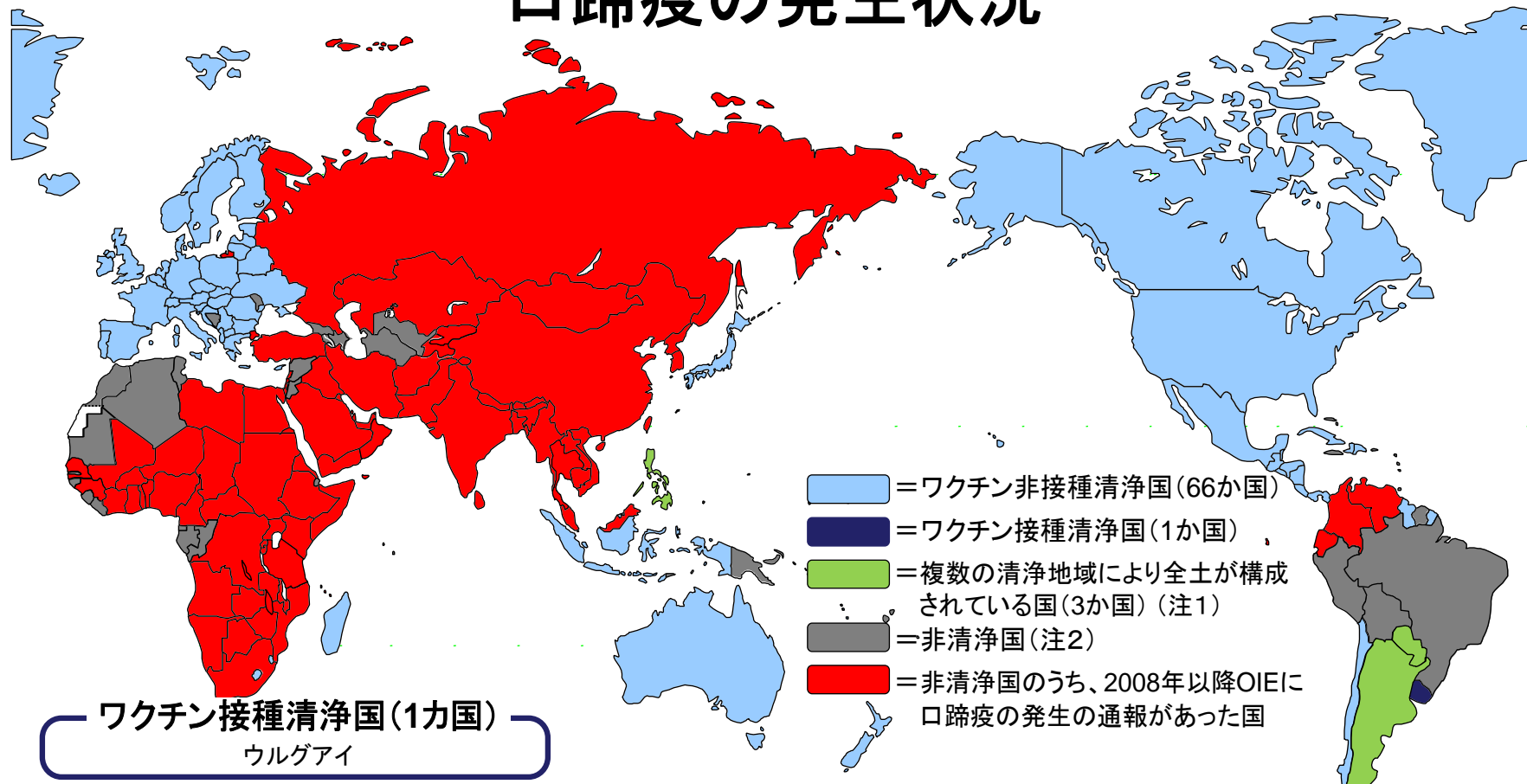
### 5. BSE

- ① 世界のBSE発生件数の推移
- ② OIEのBSEステータスの状況

### 6. 家畜伝染病等に関する情報収集について

2014年3月25日現在

# 口蹄疫の発生状況



## ～ヨーロッパ(39カ国)～

アルバニア	チェコ	ハンガリー	オランダ	スウェーデン
オーストリア	デンマーク	アイスランド	ノルウェー	セルビア
ベラルーシ	エストニア	アイルランド	ポーランド	モンテネグロ
ベルギー	フィンランド	イタリア	ポルトガル	ボスニア・ヘルツェゴビナ
クロアチア	マケドニア	ラトビア	ルーマニア	スイス
キプロス	フランス	リトアニア	スロバキア	ウクライナ
英国	ドイツ	ルクセンブルク	スロベニア	ブルガリア
サンマリノ共和国	ギリシャ	マルタ	スペイン	

## ～アジア(4カ国)～

日本  
インドネシア  
シンガポール  
ブルネイ

## ～オセアニア(4カ国)～

オーストラリア  
ニューカレドニア  
ニュージーランド  
バヌアツ

## ～南北アメリカ(15カ国)～

カナダ  
チリ  
コスタリカ  
キューバ  
エルサルバドル  
グアテマラ  
ガイアナ  
ホンジュラス  
ニカラグア  
パナマ  
米国  
ベリーズ  
ドミニカ共和国  
ハイチ  
メキシコ

## ～アフリカ(4カ国)～

スワジランド  
マダガスカル  
モーリシャス  
レソト王国

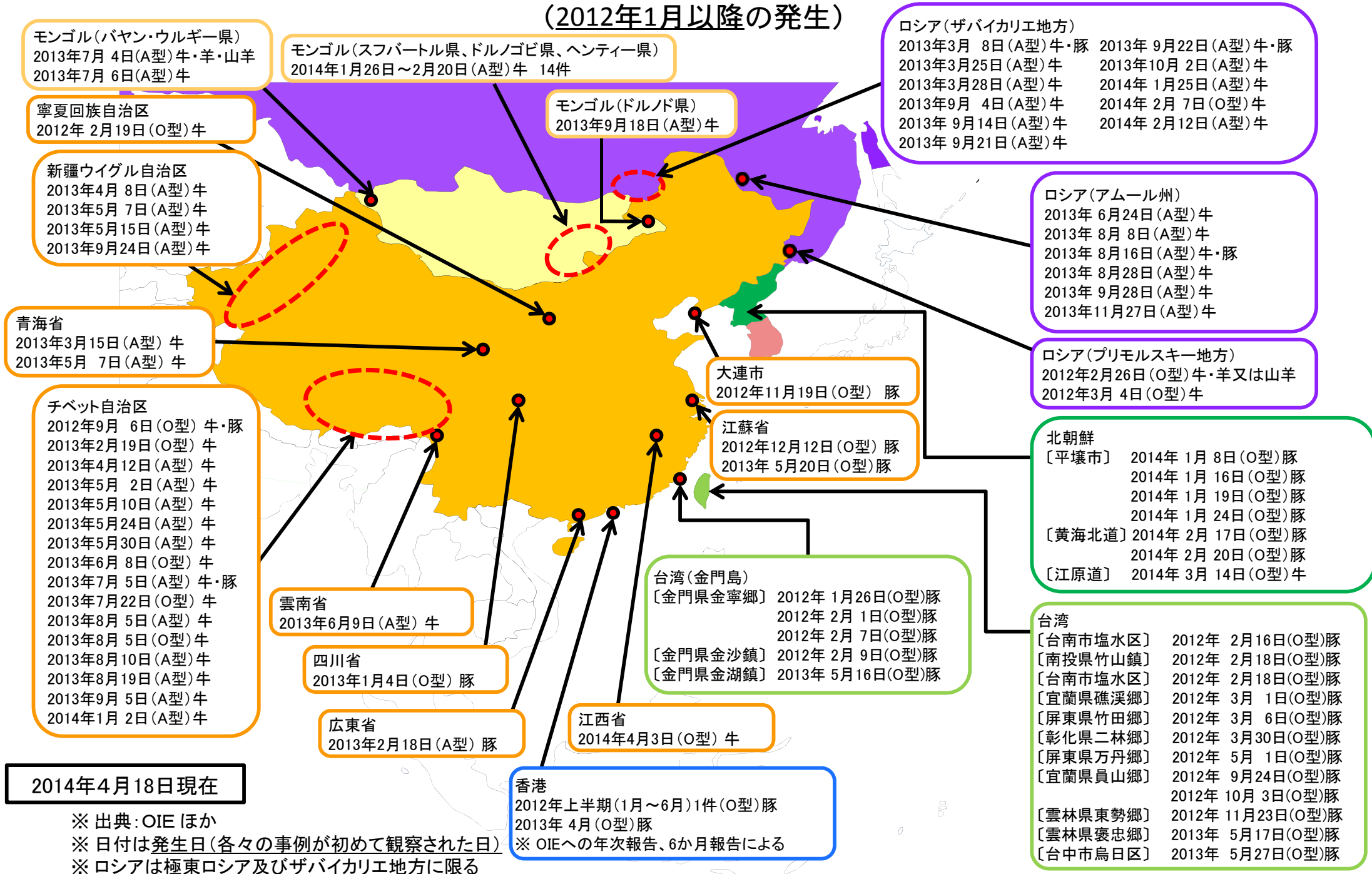
注1 国の全土が、ワクチン接種清浄地域又はワクチン非接種清浄地域により構成されている。①フィリピン:5つのワクチン非接種清浄地域。②アルゼンチン:2つのワクチン非接種清浄地域と2つのワクチン接種清浄地域。③パラグアイ:2つのワクチン接種清浄地域。

注2 非清浄国には、その一部にOIEが公式認定するワクチン非接種清浄地域／ワクチン接種清浄地域を含んでいる国を含む。

注3 更新点:ギニアにおける口蹄疫の発生確認。

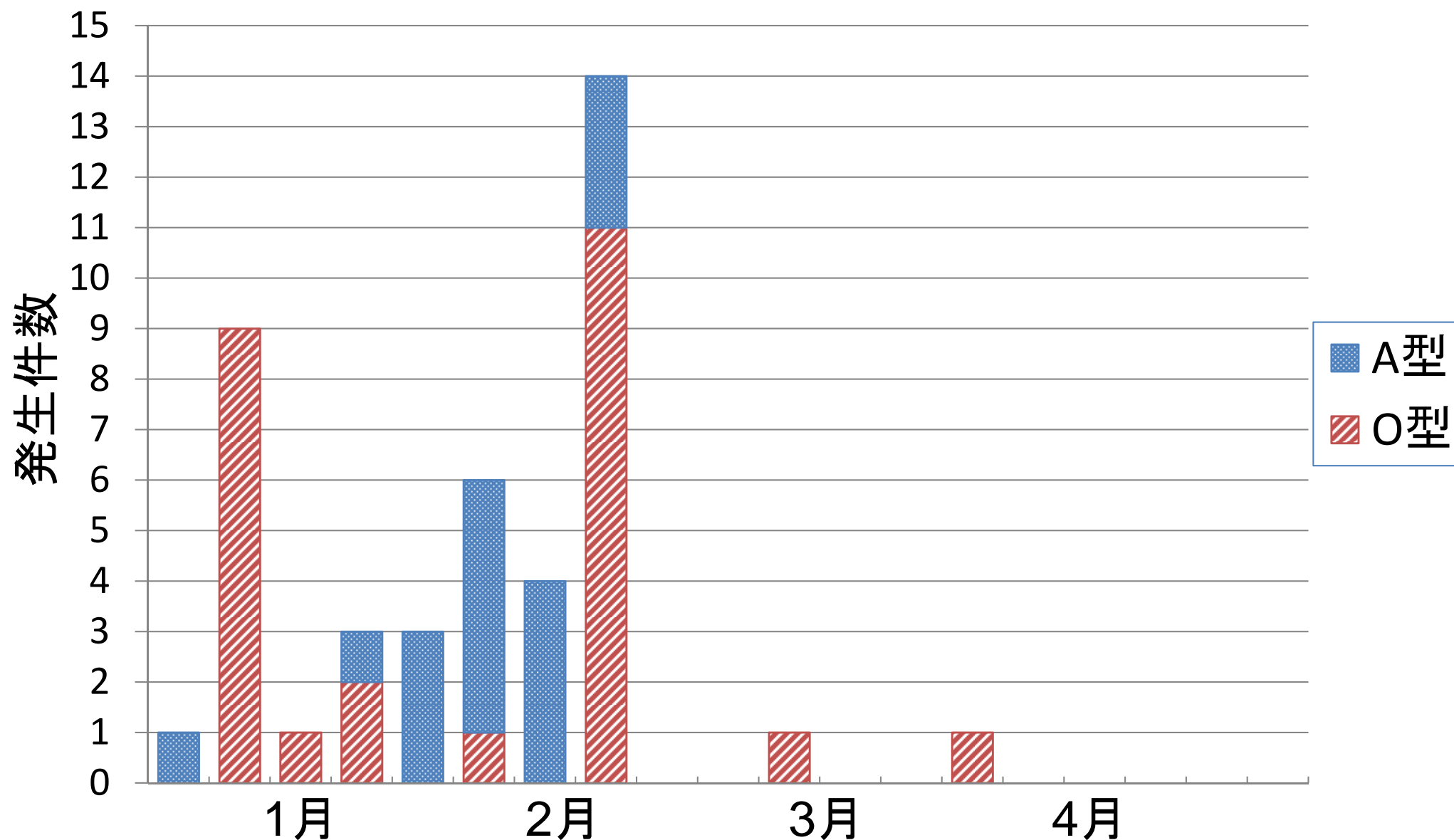
※ 出典:OIE(清浄国・地域はOIE公式認定)

# 中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮、モンゴル、ロシアにおける口蹄疫の発生状況 (2012年1月以降の発生)



# 東アジア地域\*における口蹄疫の週別発生件数の推移(2014年～)<sup>1</sup> - ②

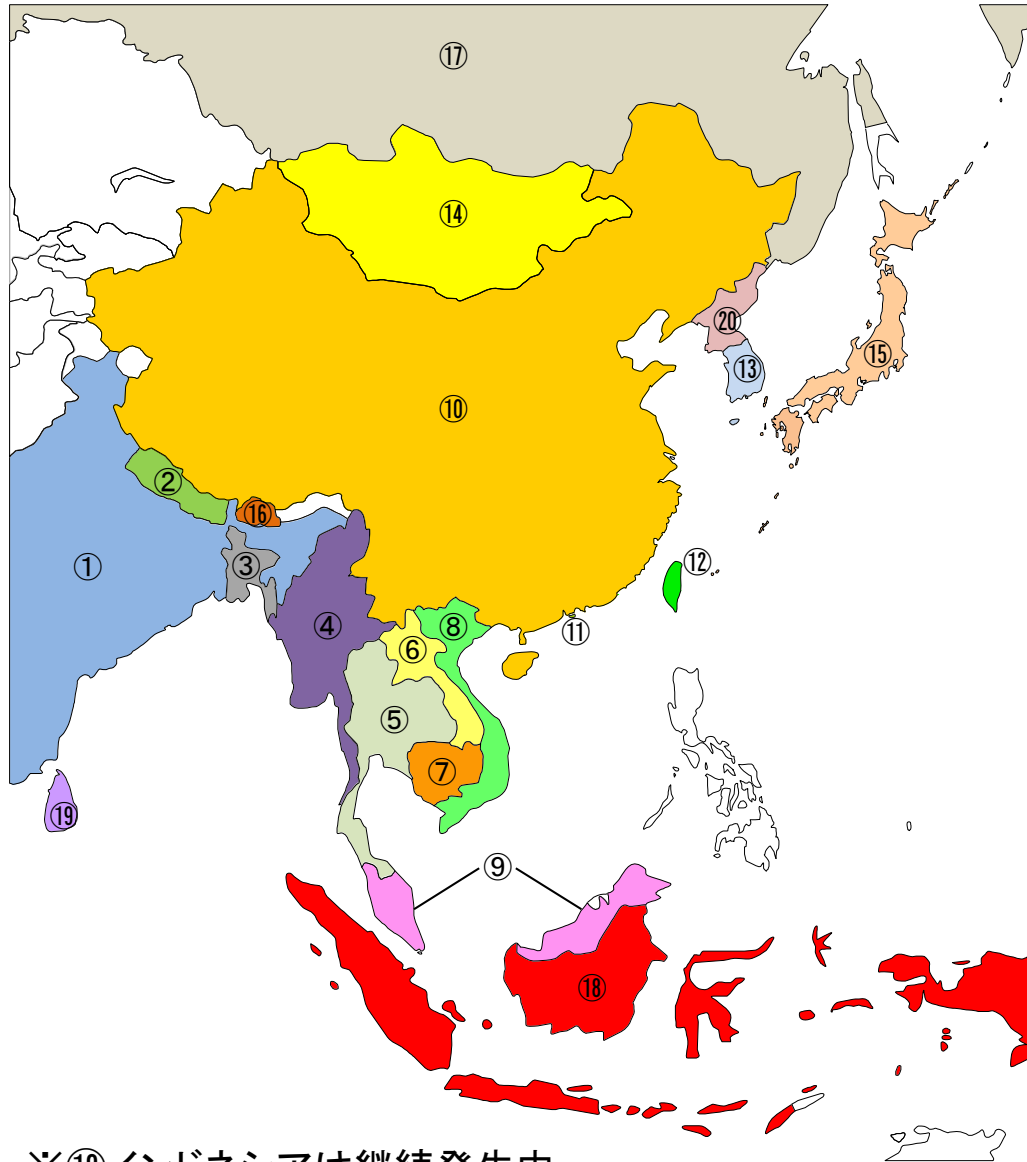
( \* 中国、香港、台湾、韓国、北朝鮮、ロシア(極東ロシア・サバイカリエ地方)、モンゴル、カザフスタン(東カザフスタン))



2014年4月18日現在

出典: OIE

# アジアにおける高病原性及び低病原性 鳥インフルエンザの発生状況



※⑱インドネシアは継続発生中

2014年4月16日現在

出典: OIE WAHID 他

		① インド	② ネパール	③ バングラデシュ	④ ミャンマー	⑤ タイ	⑥ ラオス	⑦ カンボジア	⑧ ベトナム	⑨ マレーシア	⑩ 中国	⑪ 香港	⑫ 台湾	⑬ 韓国	⑭ モンゴル	⑮ 日本	⑯ フィリピン	⑰ ロシア	⑱ スリランカ	⑳ 北朝鮮
2012年	1月	●	●	●					●			●	●			●			●	
	2月	●	●	●	●				●			●	●			▲	●			
	3月	●	●	●	●						●	●	●		▲		●			
	4月	●		●							●	●	●							
	5月							●				●	●							
	6月		●								●	●	●							
	7月								●		●		*							
	8月		●						●											
	9月								●		●									
	10月	●	●	●					●			●					●			
	11月												●							
	12月		●	●								●	●				●			
2013年	1月		●					●	●			▲					●			
	2月	●	●	●				●	●											
	3月		●	●					●											
	4月		▲						●		●									●
	5月		●						●		●		●							
	6月		●								●		●							
	7月	●	●								●		●							
	8月		●					●												
	9月		●										●							
	10月								●				●							
	11月												●							
	12月										●									
2014年	1月	▲							●		●	●	▲							
	2月		●					●	●		●		▲							
	3月						●	●	●		●		▲							●
	4月															●				

\* : マカオからの輸入事例(空港で摘発)

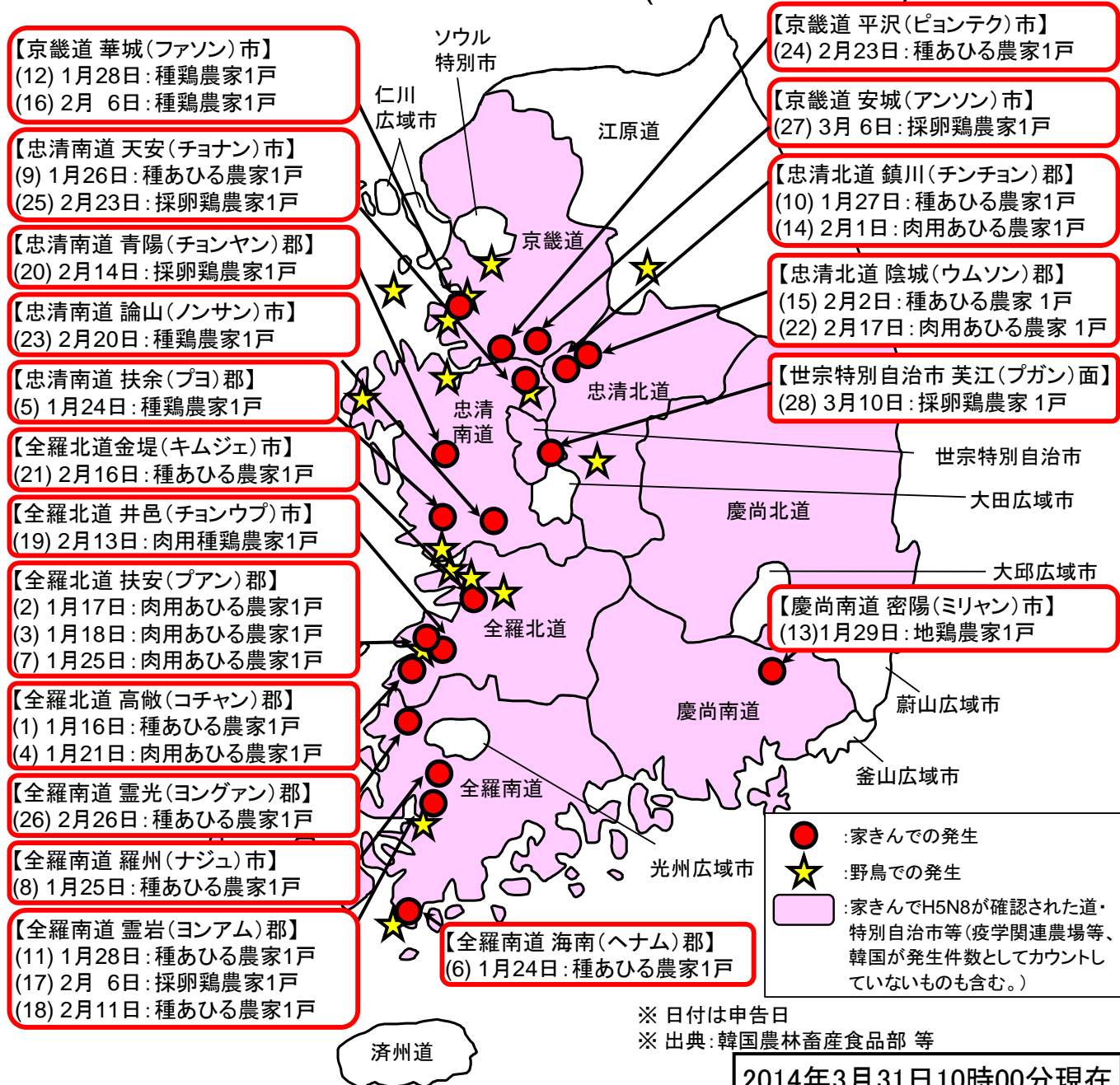
(発生日、検体回収日に基づく)

家さん● 野鳥▲ (赤: 高病原性鳥インフルエンザ、黒: 低病原性鳥インフルエンザ)

※ 野鳥の低病原性鳥インフルエンザについては確認可能な日本のみ記載



# 韓国における高病原性鳥インフルエンザ (H5N8亜型)の発生状況 (2014年1月～)



## 【発生状況】(3月31日1時時点)

- ・韓国当局の公表している発生件数:28件
- ・他に、発生農場周囲149農場、疫学関連15農場においてH5N8鳥インフルエンザが確認。

## 【野鳥での発生・対応状況】

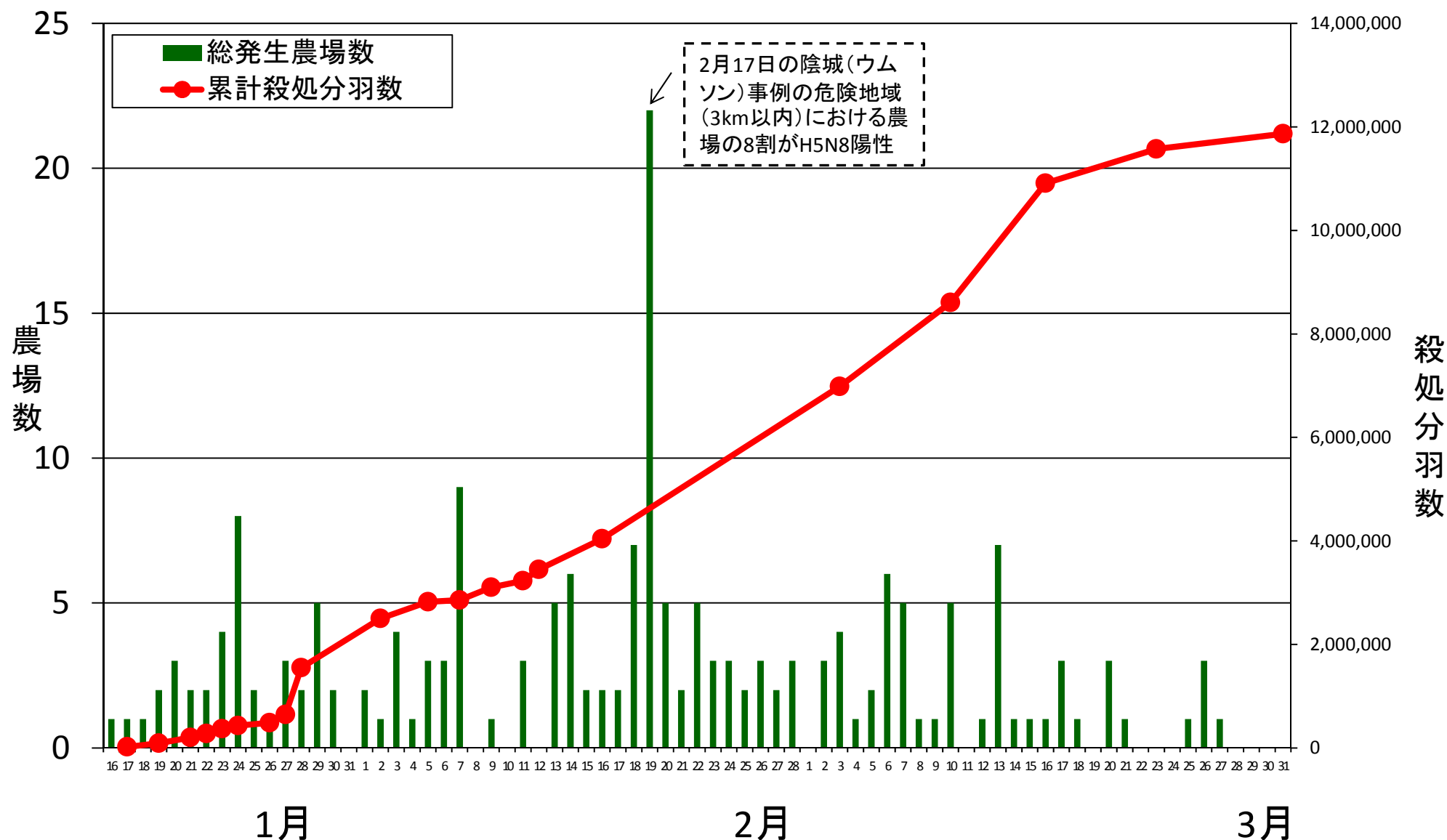
- 1 野鳥検査(427件(3月31日1時時点))
  - ・陽性:16地域、36件(トモエガモ10件、マガモ5件、ヒシクイ4件、カルガモ2件、コガモ2件、マガン2件、オオハクチョウ1件、ダイサギ1件、カイツブリ1件、オオバン1件、糞便等7件)
- 2 対応
  - ・野鳥の検出地点から10km内の家さん農場の移動制限措置、30km内の家さん農場の臨床調査、周辺道路・家さん農場の消毒

## 【防疫対応状況】

- 1 殺処分(3月30日時点)
  - ・殺処分完了:1,186万8千羽(472戸)
  - ・殺処分予定:12万4千羽(3戸)
  - ・発生農場、疫学関連農場、各発生農場周囲の農場(あひる農場及び鶏農場:危険地域(3km)内を対象)
- 2 新たな対応
  - ・犬・豚の鳥インフルエンザの検査を実施。これまでに犬22頭がH5抗体陽性(忠清南道 安市市、扶余郡、安城市、羅州市の7件。すべて臨床症状なし)、豚はすべて陰性。抗体が検出された犬は、2回以上の精密検査の結果異常がない場合は、移動制限を解除し、調査・研究に供される。

2014年3月31日10時00分現在

# 韓国における高病原性鳥インフルエンザ(H5N8)の総発生農場数・累積殺処分羽数の推移



※総発生農場数＝①申告のあった農場のうち発生が確認された農場数＋②発生農場周辺で発生が確認された農場数＋③疫学関連農場のうち発生が確認された農場数

※病原性の確定を行っていない事例を含む

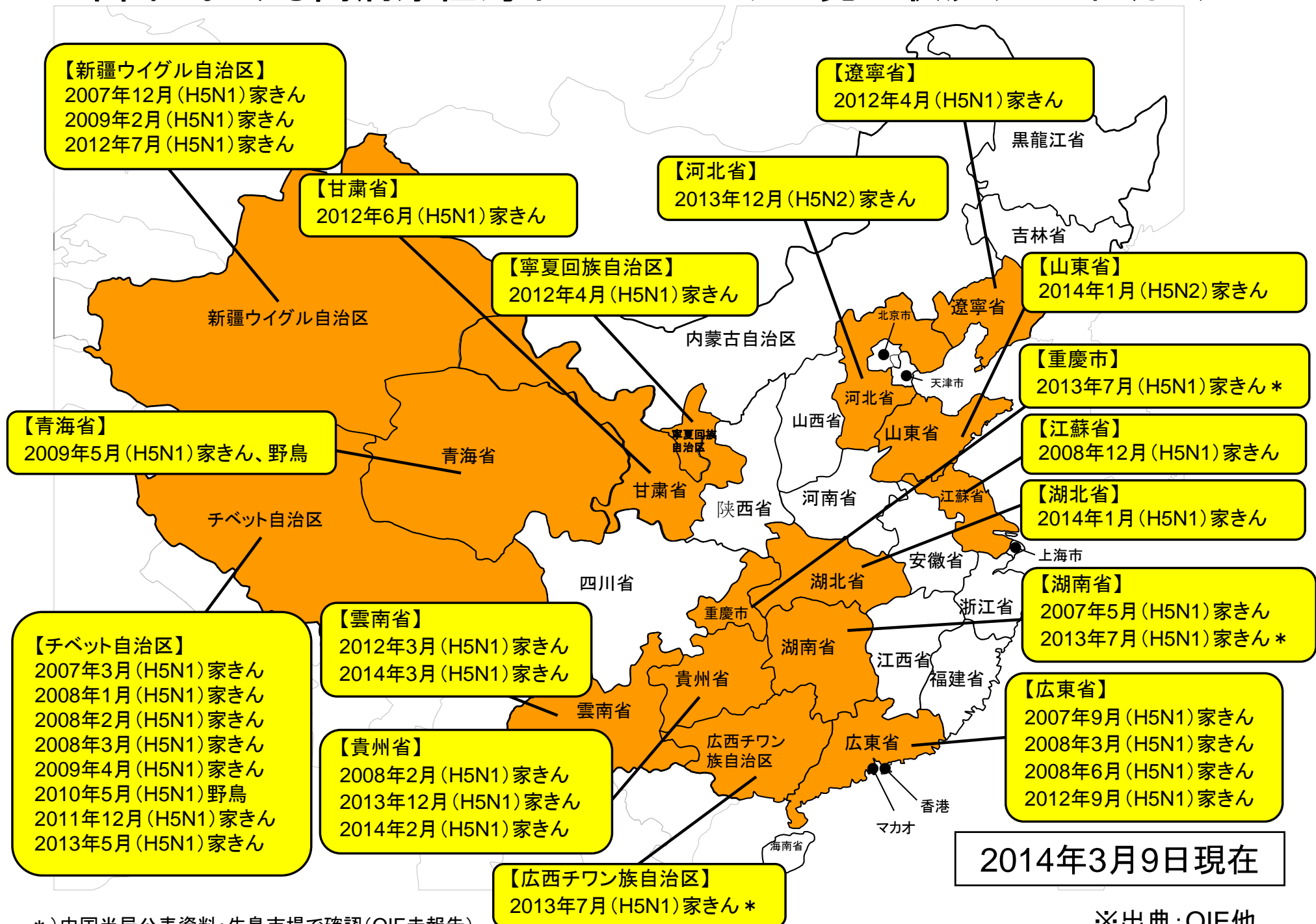
※申告日・受付日に基づく

データ出典：韓国農林畜産食品部  
(2014年3月31日10:00付けまで)

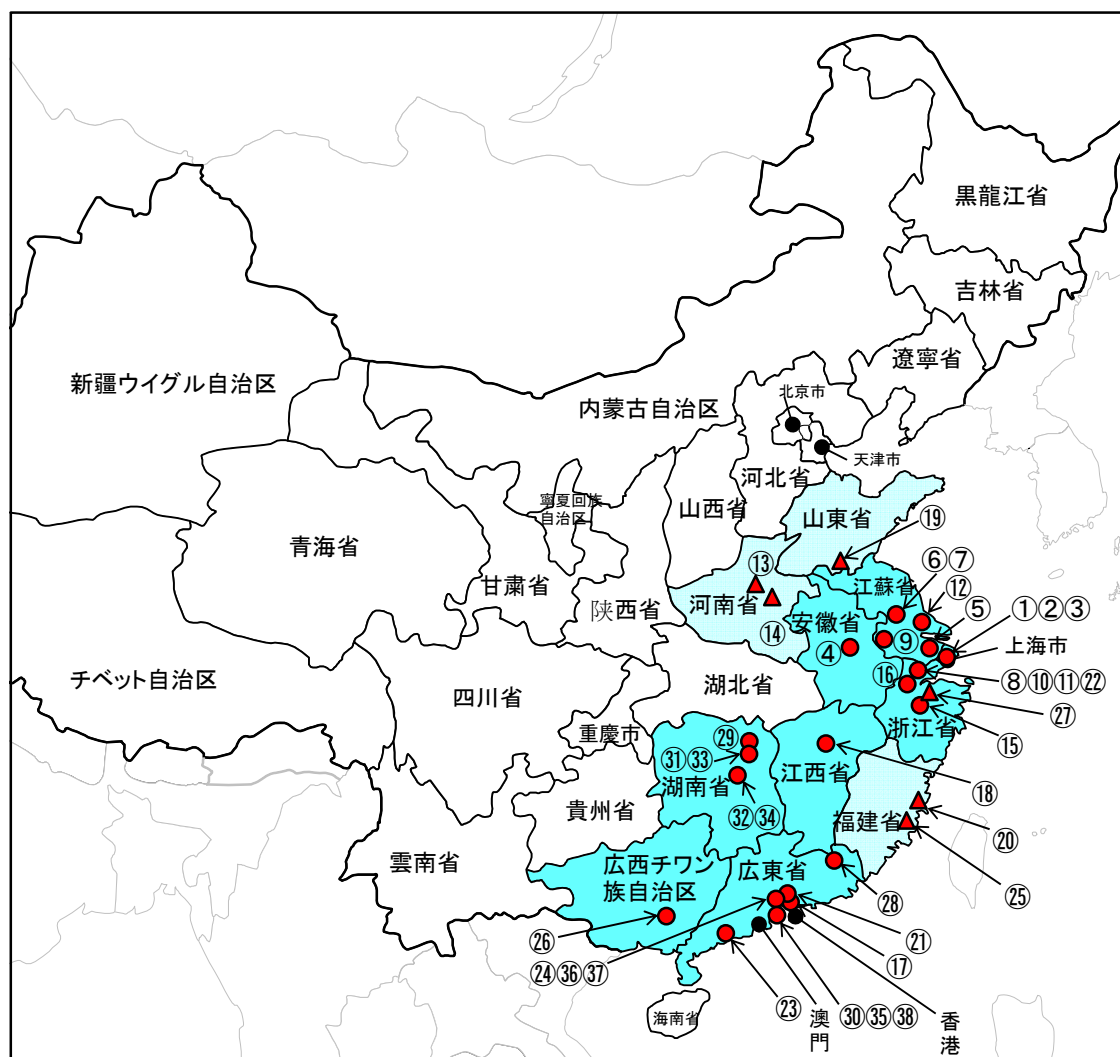


# 中国における高病原性鳥インフルエンザの発生状況(2007年1月～)

2-③



# 中国における低病原性鳥インフルエンザ(H7N9)の発生状況(2013年4月～)



2014年3月24日現在

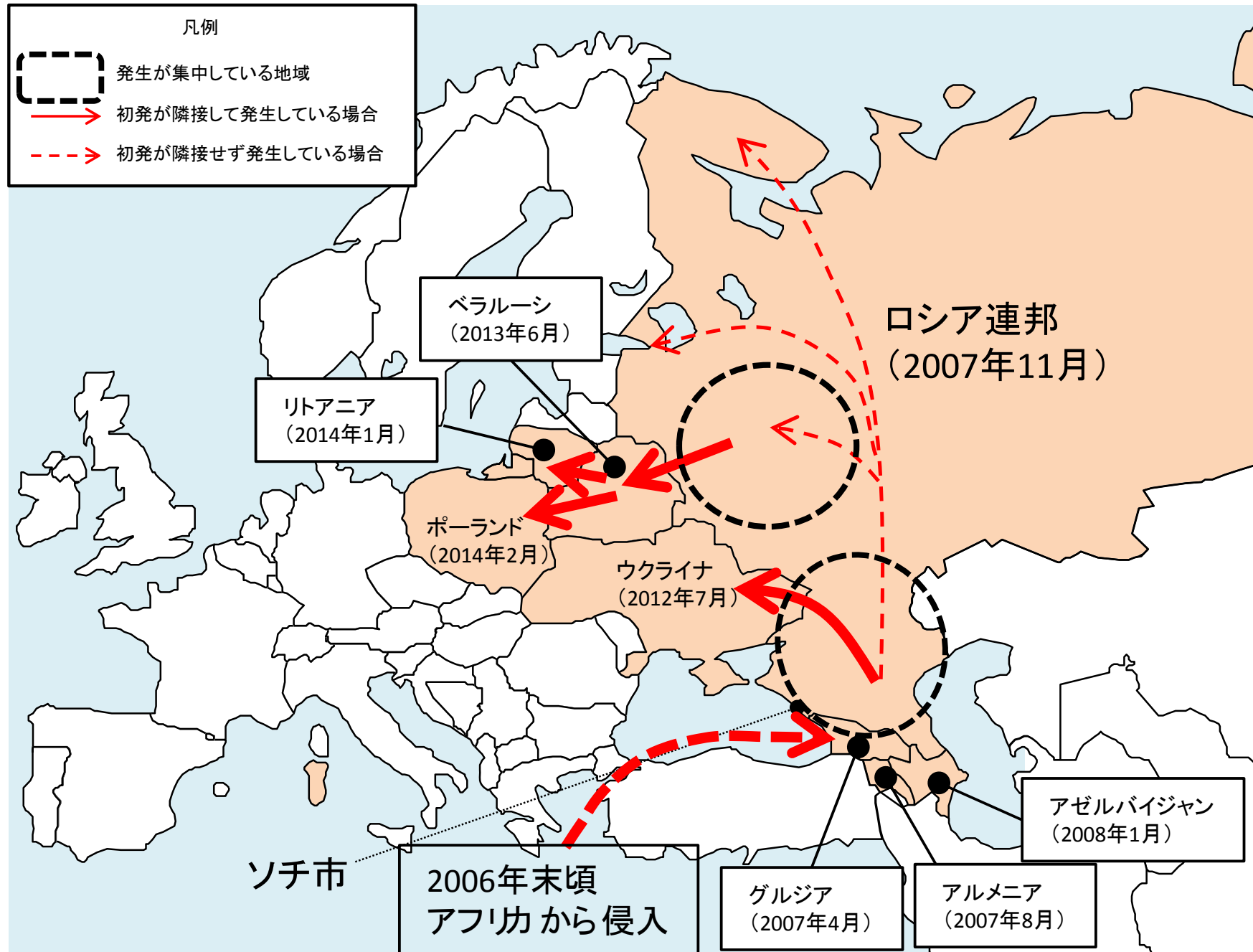
● : 動物からの検出  
▲ : 環境サンプルのみ

※出典: OIE WAHID (続報11までは2014年2月6日時点の情報に基づく)

更新点: 続報15の追加

	報告(日付)	発生日	発地域	発生場所詳細	検体
①	初報 (2013/4/4)	2013年4月4日	上海市松江区	市場	鳩、鶏、環境※ <sup>1</sup>
②	続報1 (2013/4/5)	2013年4月4日	上海市閔行区	市場	鳩、鶏、環境※ <sup>1</sup>
③		2013年4月4日	上海市閔行区	市場	鶏、環境※ <sup>1</sup>
④	続報2 (2013/4/10)	2013年4月4日	安徽省合肥市	生鳥市場	あひる
⑤		2013年4月4日	江蘇省常熟市	生鳥市場	鶏
⑥		2013年4月4日	江蘇省高郵市	生鳥市場	鶏
⑦		2013年4月4日	江蘇省高郵市	生鳥市場	鶏
⑧	続報3 (2013/4/16)	2013年4月4日	浙江省湖州市	生鳥市場	あひる
⑨		2013年4月4日	江蘇省南京市	秦淮区	鳩(野生)
⑩		2013年4月4日	浙江省湖州市	生鳥市場	家きん※ <sup>2</sup>
⑪		2013年4月4日	浙江省湖州市	生鳥市場	家きん※ <sup>2</sup>
⑫	続報4 (2013/4/22)	2013年4月4日	江蘇省南通市	農場	鳩
⑬	続報5 (2013/4/24)	2013年4月4日	河南省開封市	生鳥市場	環境※ <sup>1</sup>
⑭		2013年4月4日	河南省周口市	市場	環境※ <sup>1</sup>
⑮		2013年4月4日	浙江省金華市	市場	鶏
⑯	続報6 (2013/4/26)	2013年4月4日	浙江省杭州市	市場	鶏
⑰	続報7 (2013/5/5)	2013年4月4日	広東省東莞市	生鳥市場	鶏
⑱		2013年4月4日	江西省南昌市	市場	鶏
⑲		2013年4月4日	山東省棗荘市	生鳥市場	環境※ <sup>1</sup>
⑳	続報8 (2013/5/9)	2013年5月9日	福建省福州市	市場	環境※ <sup>1</sup>
㉑	続報9 (2013/5/21)	2013年5月20日	広東省増城市	市場	鶏
㉒	続報10 (2014/1/16)	2013年12月8日	浙江省湖州市	市場	家きん、環境※ <sup>1</sup>
㉓		2013年12月18日	広東省陽江市	市場	家きん、環境※ <sup>1</sup>
㉔	続報11 (2014/1/26)	2014年1月11日	広東省広州市	市場	鶏
㉕		2014年1月16日	福建省泉州市	市場	環境※ <sup>1</sup>
㉖	続報12 (2014/2/11)	2014年1月17日	広西チワン族自治区貴港市	生鳥市場	鶏
㉗		2014年1月22日	浙江省諸暨市	生鳥市場	環境※ <sup>1</sup>
㉘		2014年1月23日	広東省梅州市	生鳥市場	鶏
㉙		2014年1月27日	湖南省岳陽市	生鳥市場	鶏、あひる
㉚		2014年1月28日	広東省珠海市	生鳥市場	鶏
㉛	続報13 (2014/2/28)	2014年2月15日	湖南省長沙市	生鳥市場	鶏
㉜		2014年2月15日	湖南省婁底市	生鳥市場	鶏
㉝	続報14 (2014/3/7)	2014年2月19日	湖南省長沙市	市場	鳩
㉞		2014年2月19日	湖南省婁底市	市場	鶏
㉟		2014年2月23日	広東省珠海市	市場	鶏
㊱		2014年3月8日	広東省広州市	生鳥市場	家きん
㊲	続報15 (2014/3/21)	2014年3月8日	広東省広州市	生鳥市場	家きん
㊳		2014年3月14日	広東省珠海市	農場	家きん※ <sup>2</sup>

# 欧州地域におけるアフリカ豚コレラの発生拡大状況(2007年～)



## 中国における小反芻獣疫の発生状況 (2013年12月～)

初発: 新疆ウイグル自治区  
2013年12月5日



発生地域: 21省級自治体

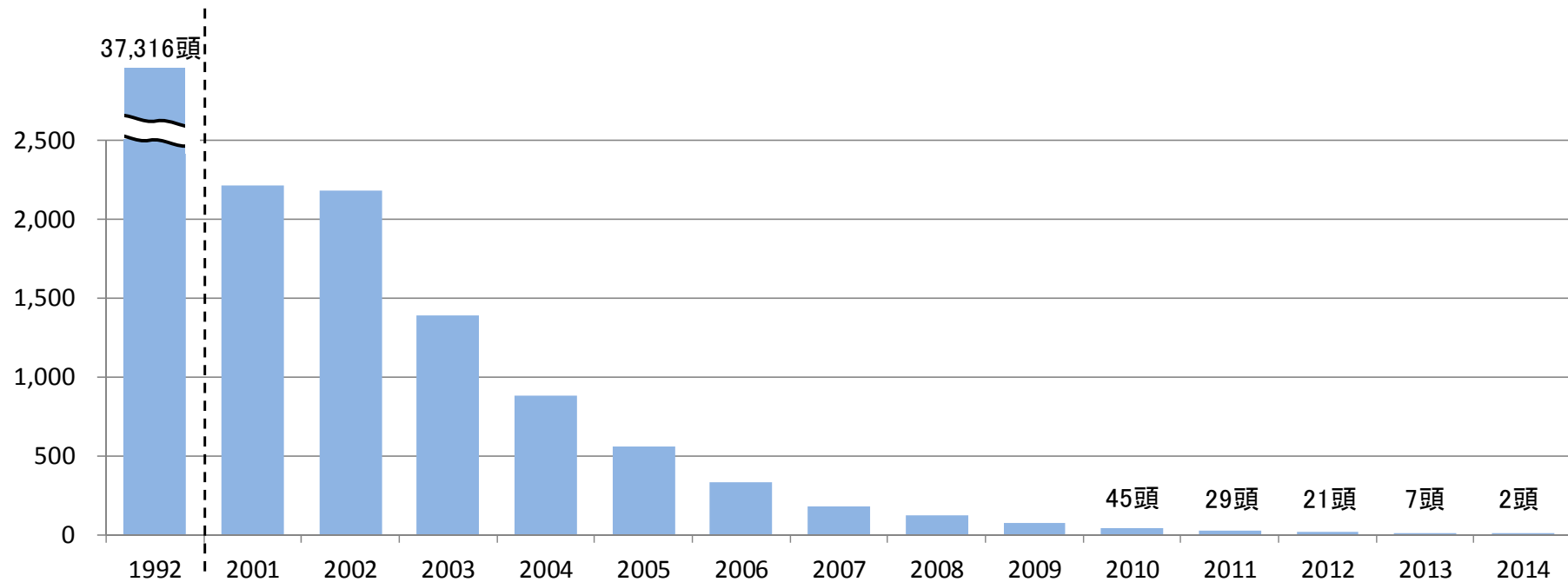
発生件数: 135件

2014年4月9日現在

※ 出典: OIE

# 世界のBSE発生件数の推移

・ 発生のパークは1992年。BSE対策の進展により、発生頭数は大きく減少。



	1992	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	累計
全体	37,316	2,215	2,179	1,389	878	561	329	179	125	70	45	29	21	7	2	190,652
欧州 (英国除く)	36	1,010	1,032	772	529	327	199	106	83	56	33	21	16	4	2	5,967
英国	37,280	1,202	1,144	611	343	225	114	67	37	12	11	7	3	3	0	184,624
アメリカ	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	3
ブラジル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
カナダ	0	0	0	2 (※1)	1	1	5	3	4	1	1	1	0	0	0	20 (※2)
日本	0	3	2	4	5	7	10	3	1	1	0	0	0	0	0	36
イスラエル	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

出典：OIE（データはOIEウェブサイトにて2014年4月18日に確認）

※1 うち1頭は米国で確認されたもの。

※2 カナダの累計数は、輸入牛による発生を1頭、米国での最初の確認事例（2003年12月）1頭を含んでいる。

# OIEのBSEリスクステータスの状況 (2013年5月)

5 - ②

ステータス	リスク評価	サーベイランス	リスク低減措置	認定を受けた国・地域
無視できるリスク (25か国)	実施	<p>B型サーベイランス※を実施中</p> <p>※5万頭に1頭のBSE感染牛の検出が可能なサーベイランス(例:日本の飼養規模の場合15万ポイントが必要)</p>	<p>①過去11年以内に自国内で生まれた牛で発生がないこと。</p> <p>②有効な飼料規制※が8年以上実施されていること (※反すう動物由来肉骨粉の反すう動物への給与禁止)</p>	<p>アイスランド、アメリカ合衆国、アルゼンチン、イスラエル、イタリア、インド、ウルグアイ、オーストラリア、オーストリア、オランダ、コロンビア、シンガポール、スウェーデン、スロベニア、チリ、デンマーク、<b>日本</b>、ニュージーランド、ノルウェー、パナマ、パラグアイ、フィンランド、ブラジル、ペルー、ベルギー</p>
管理されたリスク (27か国・地域)	実施	<p>A型サーベイランス※を実施中</p> <p>※10万頭に1頭のBSE感染牛の検出が可能なサーベイランス(例:日本の飼養規模の場合30万ポイントが必要)</p>	<p>有効な飼料規制※が実施されていること。 (※反すう動物由来肉骨粉の反すう動物への給与禁止)</p>	<p>アイルランド、イギリス、エストニア、カナダ、韓国、キプロス、ギリシャ、クロアチア、コスタリカ、スイス、スペイン、スロバキア、台湾、チェコ、ドイツ、ニカラグア、ハンガリー、フランス、ブルガリア、ポーランド、ポルトガル、マルタ、メキシコ、ラトビア、リトアニア、リヒテンシュタイン、ルクセンブルグ</p>
不明のリスク (その他の国・地域)	無視できるリスク、管理されたリスクのいずれにも該当しない場合			

## 家畜疾病等に関する情報収集について（ウェブサイト）

各国の家畜疾病の発生情報については、OIE 情報、各国当局の公表情報、報道情報等ととりまとめ、適時、都道府県担当者等へ連絡しています。

また、提供情報の一部については、必要に応じて農林水産省のウェブサイトで公表しています。

### ○家畜の病気を防ぐために （家畜衛生及び家畜の感染症について）

[http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/ka\\_tiku\\_yobo/index.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/ka_tiku_yobo/index.html)

### ○各疾病情報

- ・口蹄疫
- ・鳥インフルエンザ
- ・牛海綿状脳症（BSE）
- ・アフリカ豚コレラ
- ・豚コレラ
- ・小反芻獣疫
- ・狂犬病
- ・豚流行性下痢（PED）

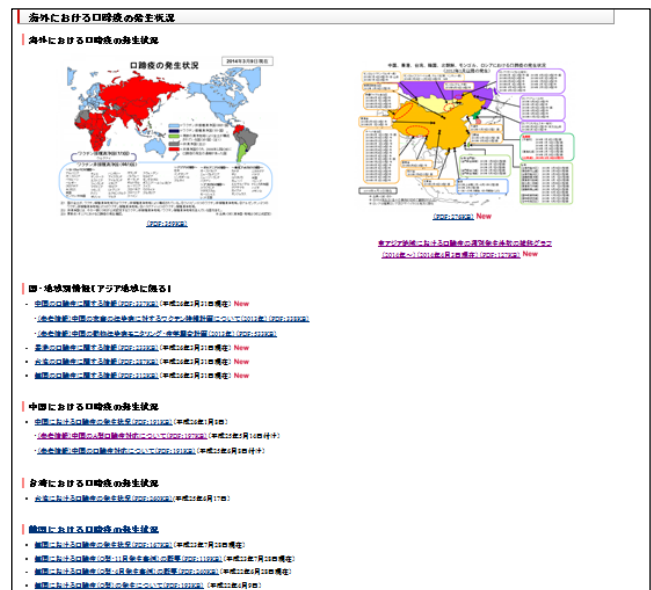
等

### 【農林水産省ウェブサイト】



### ▲ 家畜の病気を防ぐために

### ○日本の近隣諸国・地域のリスクプロファイル（発生状況、管理措置等の関連情報） 疾病：口蹄疫、鳥インフルエンザ 国・地域：中国、香港、台湾、韓国



### ▲ 口蹄疫に関する情報